

# 「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」に



# が学んだこと

「実現しようとする政策の中身は正反対ながら、一人の女性が信念を貫く姿に多くを学びました。私も頑張るで、と覚悟を決め直しました」。映画「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」を見た感想を、かつて国会で「総理！総理！」とほえた衆院議員の辻元清美さん(51)＝写真①＝が語る。1979～90年に英国初の女性首相を務め、強硬な政治手法から「鉄の女」と呼ばれたサッチャーの生き様を描く。【鶴谷真】

## 雑草かて、やれるんや



© 2011 Pathé Productions Limited, Channel Four Television Corporation and The British Film Institute

夫は他界し、子供たちは独立。静かに暮らすサッチャーだが、夫の幻影がしばしば現れるようだ。老サッチャーが来し方を回想する形式で物語は進む。サッチャー役のメリル・ストリープは、今年のアカデミー賞で主演女優賞に輝いた。監督は「マンマ・ミーア!」(08年)のフィリダ・ロイド。「自分をコントロールできなくなるシーン

『女のくせに』って顔に書いてある男性がいる。国会だけじゃなくて企業や役所も、今でも意思決定はほとんど男性がしている。だからサッチャーさんの姿に涙が出ました」としみじみ。「ただ私と違って、夫がサッチャーさんを支える姿がうらやましい。私も早く見つけようと思った」とカラカラ笑う。ちなみに結婚歴はなく、彼氏募集中

「人生に悩む人は勇氣をもらえる映画です」と締めくくり、「さあ、私も」と議員ハツツをつけた。そして、風のように支持者回りに駆け出した。手帳には「鉄の女にならんとアカン」とメモしてあるそだ。11年、英1時間45分。大阪ステーションシティシネマほかで公開中。

の撮影が印象深い。理解者である大臣をも面罵してしまつ。権力者の不安や孤独が伝わるはず」と話す。

階級社会の英国だけに、雑貨店の娘という点でサッチャーがあざ笑われる描写が、日本の政界にもある、と辻元さん。

「2世、3世の世襲議員は大事にされる。地盤も引き継いでねえ。私、悔しいんです! うどん屋の娘の私にだってやれるはず。雑草、つまり庶民の代表として政治をした」と思ってきました」

更に、サッチャーは国会の男社会とも闘った。「口には出さなくても、

という。

野党時代に激しく与党を攻撃したサッチャーは、ついに首相に上り詰める。高い失業率と不況の中、支出削減を進め、今度は強い批判を浴びる。フォークランド紛争では断固、英国軍を出動させた。

そういうえば、女優辻元さんは最近、円くなったようにも見えるが……。

「追及する側から、サッチャーさんのように追及される側を目指すということ。突っ込み一本では政治は突えられないから」ときっぱり。

